

南湖におけるホンモロコの産卵状況調査

片岡佳孝

1. 目的

南湖はかつてホンモロコの主要な産卵場であったが、近年、産卵がほとんど確認されない状況が続いていた。このため、滋賀県では種苗放流、水草刈り取りおよび外来魚駆除を行い、南湖での再生産を回復させる取り組みを行っている。本稿では南湖での産卵状況調査の結果を報告する。

2. 方法

産卵調査は、草津市下笠地先のヤナギ林（調査区間：約 153m。以下、下笠）および守山市赤野井地先のヤナギ林（調査区間：約 212m。以下、赤野井）においてホンモロコの産卵期に産着卵数の計数調査を行った。調査は、1 回/週の頻度で行い、調査回数は下笠が 2022 年 3 月 17 日～7 月 5 日の期間に計 17 回、赤野井が 3 月 17 日～7 月 28 日の間に計 20 回であった。

3. 結果

ホンモロコの産着卵は、下笠では 3 月 17 日～6 月 22 日、赤野井では 3 月 29 日～7 月 12 日の間で確認された（図 1）。調査期間中の総産着卵数は、下笠で 716 万粒、赤野井で 1,375 万粒であった。産卵のピークは下笠、赤野井ともに 6 月 8 日であり、このときに計数された産着卵数は、赤野井で 720 万粒、下笠で 304 万粒であった。この値は、下笠および赤野井それぞれの総産着卵数の 42% および 52% を占める大量産卵であった。

両地点の総産着卵数は、産卵が大幅に増加し始めた 2019 年と比べても、下笠で 3.6 倍、赤野井で 11 倍となった（図 2、図 3）。

現状として南湖のホンモロコの自然産卵は、順調に回復してきていると判断される。一方で、産卵が長期に渡るようになり、資源維持

のために有効な産卵時期を評価する必要がある。

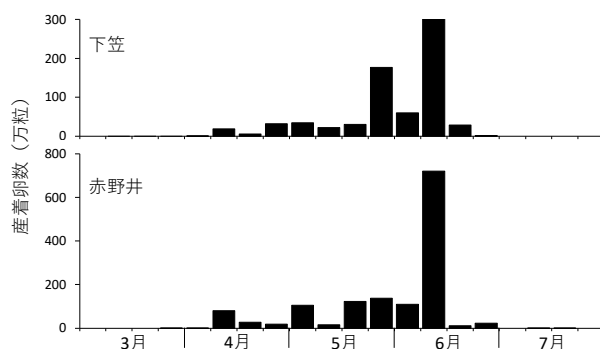


図 1 2022 年の産着卵数の推移

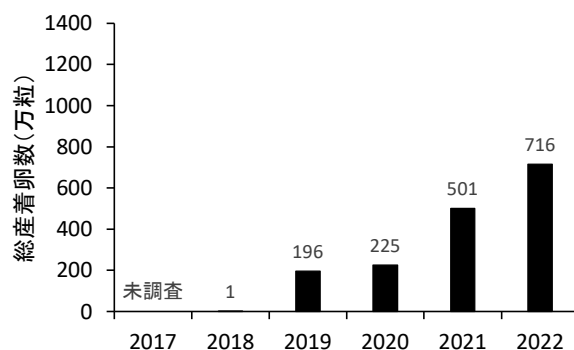


図 2 下笠における総産着卵数の推移

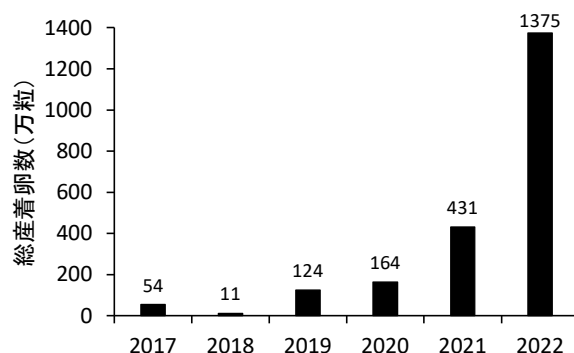


図 3 赤野井における総産着数の推移